2009 年 12 月 15 日発行　年 4 回発行　通巻 59 号　ISSN 1341-545X

自然科学のとびら

Newsletter of the Kanagawa Prefectural Museum of Natural History

Vol. 15, No. 4　　神奈川県立生命の星・地球博物館　　Dec., 2009

「東海ナガレ」の色彩変異個体

KPM-NI 23771, 体長 40.2 mm
瀬能　宏 撮影

丸山琢也（山梨県立吉田高等学校）
奥山誠一（山梨県立甲府東高等学校）
宮崎淳一（山梨大学教育人間科学部）

愛知県の東部から静岡県の西部にかけての地域には、西日本を中心に分布するナガレホトケドジョウと形態的には見分けがつかないにもかかわらず、遺伝的には東北地方から近畿地方に分布するホトケドジョウに近縁なホトケドジョウ属魚類が生息しています。この魚は、現在日本から知られるホトケドジョウ属の第 5 番目の種である可能性もあり、仲間内では「東海ナガレ」と呼んでいます。

今回、愛知県内の 1 河川において、この魚の色彩変異が 3 個体発見されました。自然界において目立つ色彩変異個体は、捕食されやすく、生き残ることが難しいと言われています。そのためきわめて稀な存在ですが、同じ河川で複数個体が発見されたのは、この魚がヤマメやイワナが生息していない河川の上流部に生息し、夜行性で鳥類に襲われる危険も少ないからと思われます。これまで報告されたナガレホトケドジョウとホトケドジョウの色彩変異は、頭部周辺に色素の異常がみられましたが、「東海ナガレ」の 3 個体中 2 個体も興味深いことに同様でした。